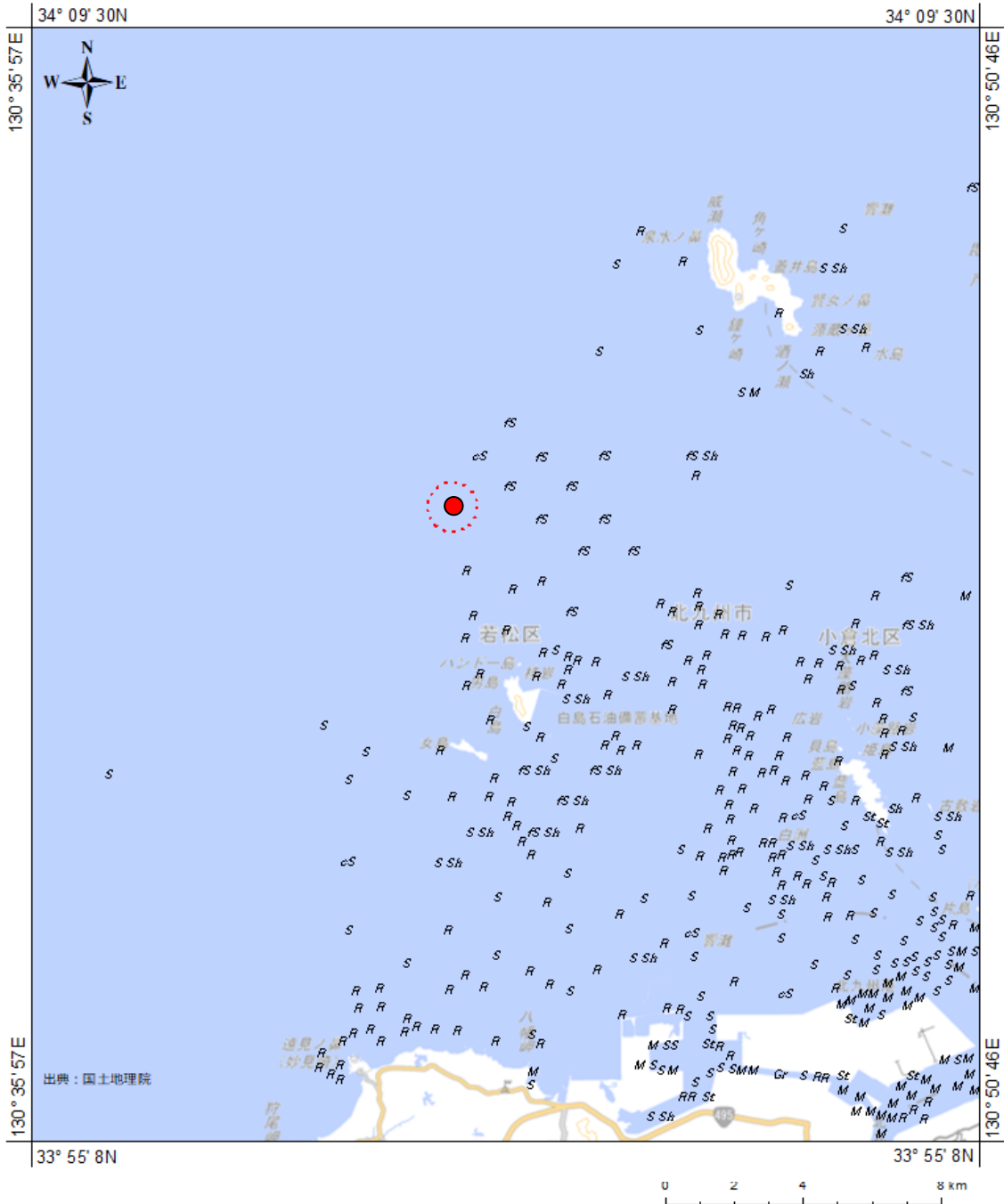


また、事業実施区域周辺の底質の状況を図 3.1-14 及び図 3.1-15 に示す。対象区域は、データが少ないものの、砂質であることが推定される。



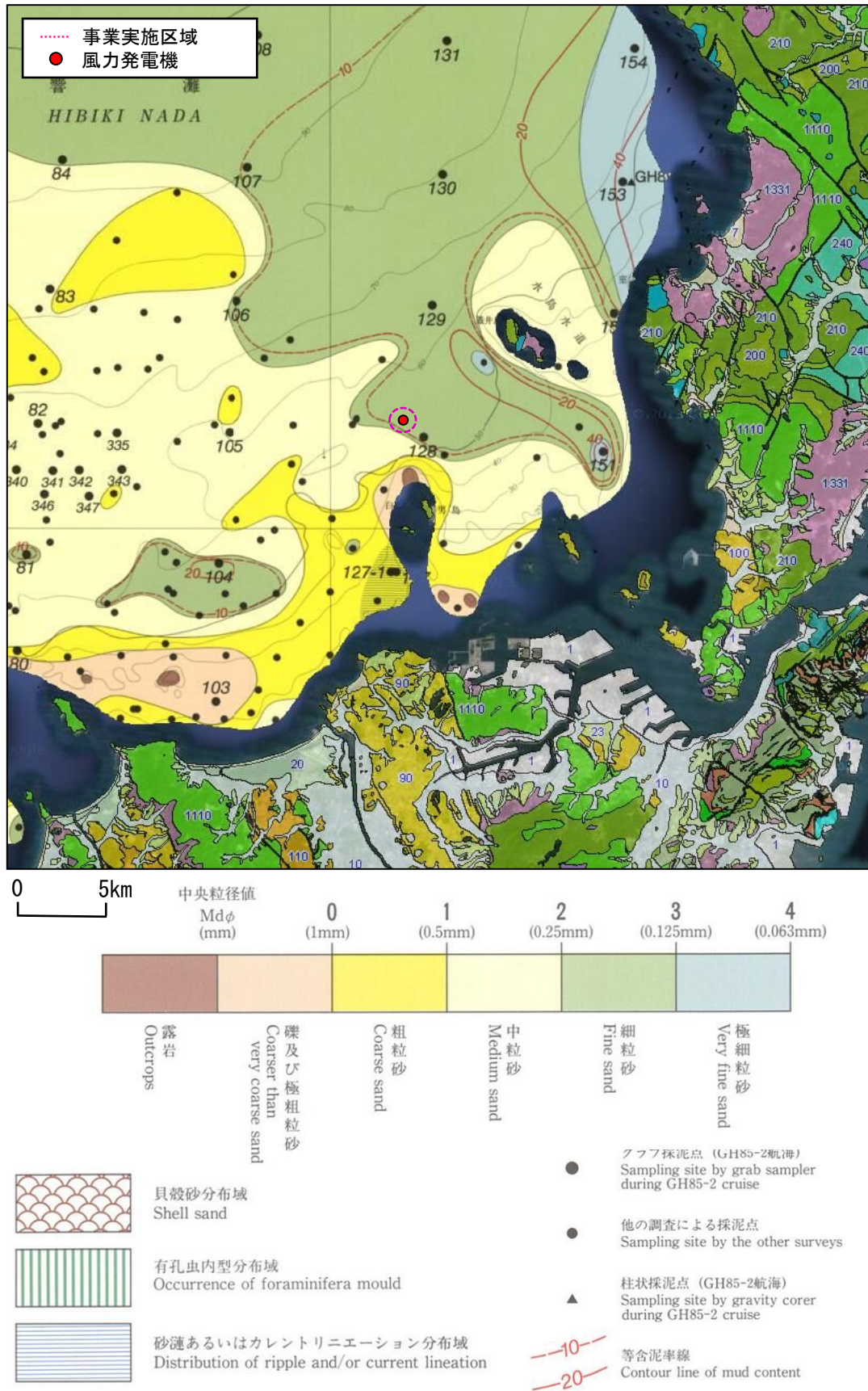
海底の底質

海底の底質 R: 岩、S: 砂、cS: 粗い砂、fs: 細かい砂、M: 泥、Sh: 貝

--- 事業実施区域      ● 風力発電機

出典: 「海底の底質」(環境省、環境アセスメントデータベース、令和4年6月 閲覧)

図 3.1-14 海域の底質の状況



出典：「響灘海底地質図」（「地質図 Navi」（国立研究開発法人産業技術総合研究所 HP）  
 (<https://www.gsj.jp/HomePageJP.html>)（令和4年6月閲覧）

図 3.1-15 表層堆積図

### 3.1.3 土壌及び地盤の状況

事業実施区域は沖合洋上のため陸域の土壌及び地盤の状況は該当しない。

### 3.1.4 地形及び地質の状況

#### (1) 海底地形

事業実施区域は、洋上に位置しており、事業実施区域周辺の水深・海底地形図を図 3.1-16 に示す。事業実施区域周辺の海底の勾配は概ね緩傾斜となっている。事業実施区域付近の水深は約 50～100m である。

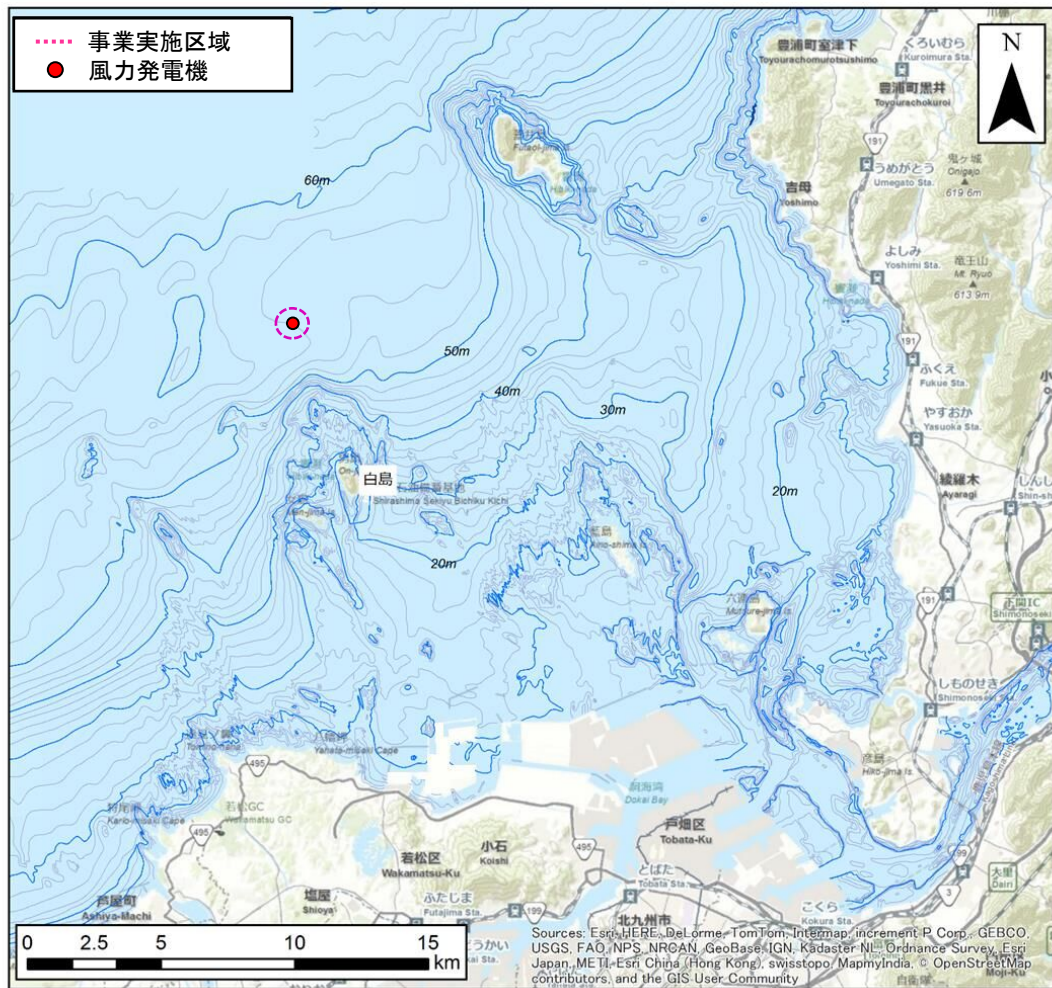
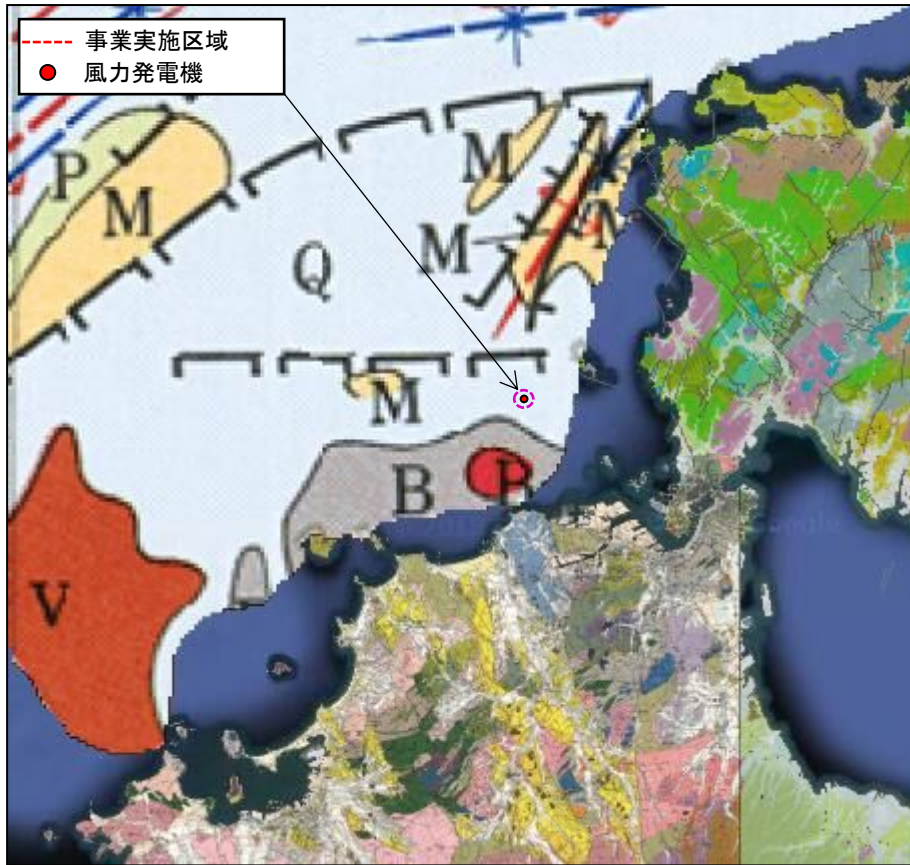


図 3.1-16 事業実施区域周辺の水深・海底地形等

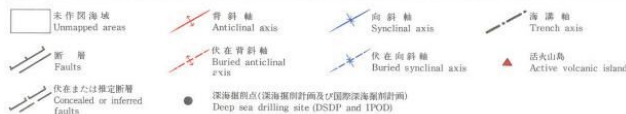
#### (2) 海底地質

事業実施区域周辺の海底地質構造図は図 3.1-17 に示すとおりであり、事業実施区域の基盤岩は、大陸縁辺及び縁海に位置する新生代第四紀（完新世及び更新世）の未固結堆積物に該当している。また、周辺域には、新生代中新世における堆積岩の点在が見られる。さらに白島付近及び沿岸に近づくると、中生代白亜紀の関門層群及びこれに貫入した白亜紀の花崗岩等の分布が見られる。なお、これらの周りには第四紀更新世の地層が広く混じり合っている（表 3.1-25 参照）。



凡例 LEGEND

区分	地質時代	大陸縁辺及び縁海	海溝斜面及び海溝	大洋底 (北西太平洋海盆)
堆積岩類 Sediments and sedimentary rocks	新第三紀 Neogene	完新世及び更新世 Holocene and Pleistocene Q 未固結堆積物 Unconsolidated sediments 中新世 P 半固結堆積物・堆積岩 Semi-consolidated sediments and sedimentary rocks 中新世中期 Mu 堆積岩 Sedimentary rocks 中新世前期-中期 M1 堆積岩 Sedimentary rocks 古第三紀 Pg 堆積岩(一部中新統を含む) Sedimentary rocks (including a part of Miocene Strata)	海溝斜面及び海溝 Trench and Trench Slope D 海溝底堆積物 (主としてタービダイト) Sediments in trench bottom (Composed mainly of turbidites) t 成層堆積物 Thin sediment cover a 非成層堆積物 (付加堆積物を含む) Unstratified sediments including accretional sediments	大洋底 (北西太平洋海盆) Ocean Floor (Northwest Pacific Basin) P 造洋性堆積物 (主として褐色泥) Pelagic sediments composed mainly of brown clay S 海山上堆積物 (主として石灰質軟泥及び石灰岩) Sediments composed of calcareous ooze and limestone on seamounts
	中生代 Mesozoic			
音響的基盤 Acoustic basement	新生代 Cenozoic 未知岩類 Unknown rocks 中生代 Mesozoic B 時代未詳 Unknown rocks 古生代 Paleozoic Bk 堆積岩 Sedimentary rocks Bv 火山岩類 Volcanic rocks Bp 花崗岩類 Granitic rocks Bq 火山岩類 Volcanic rocks Bn 日本海側 造岩流紋岩 緑色凝灰岩等 Volcanic rocks composed mainly of Nohi Rhyolites and "Green Tuff"		Bb 海洋性玄武岩類 Oceanic basalts Bs 成層した音響的基盤 Acoustic basement stratified	



出典：「日本海広域地質図」（「地質図 Navi」（国立研究開発法人産業技術総合研究所 HP）  
<https://www.gs.j.jp/HomePageJP.html>）（令和 4 年 6 月閲覧）

図 3.1-17 海底地質構造図

表 3.1-25 事業実施区域周辺の層序区分

岩種区分	地質時代	地層名	構成地質	
堆積岩類	第四期	完新世	沖積層	主に砂、礫及び泥
		更新世	更新統	主に砂、礫及び泥
	第三期	更新世	芦屋層群・大辻層群	主に礫岩、砂岩、泥岩
		漸新世		
火成岩類	白亜紀	関門層群	安山岩溶岩、凝灰岩、礫岩、砂岩等	
	白亜紀	(貫入岩類)	花崗岩、ひん岩等	

出典：「洋上風力発電技術開発 平成 20 年度洋上風力発電実証研究 F/S 調査」（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（委託先）電源開発株式会社、平成 21 年 3 月）

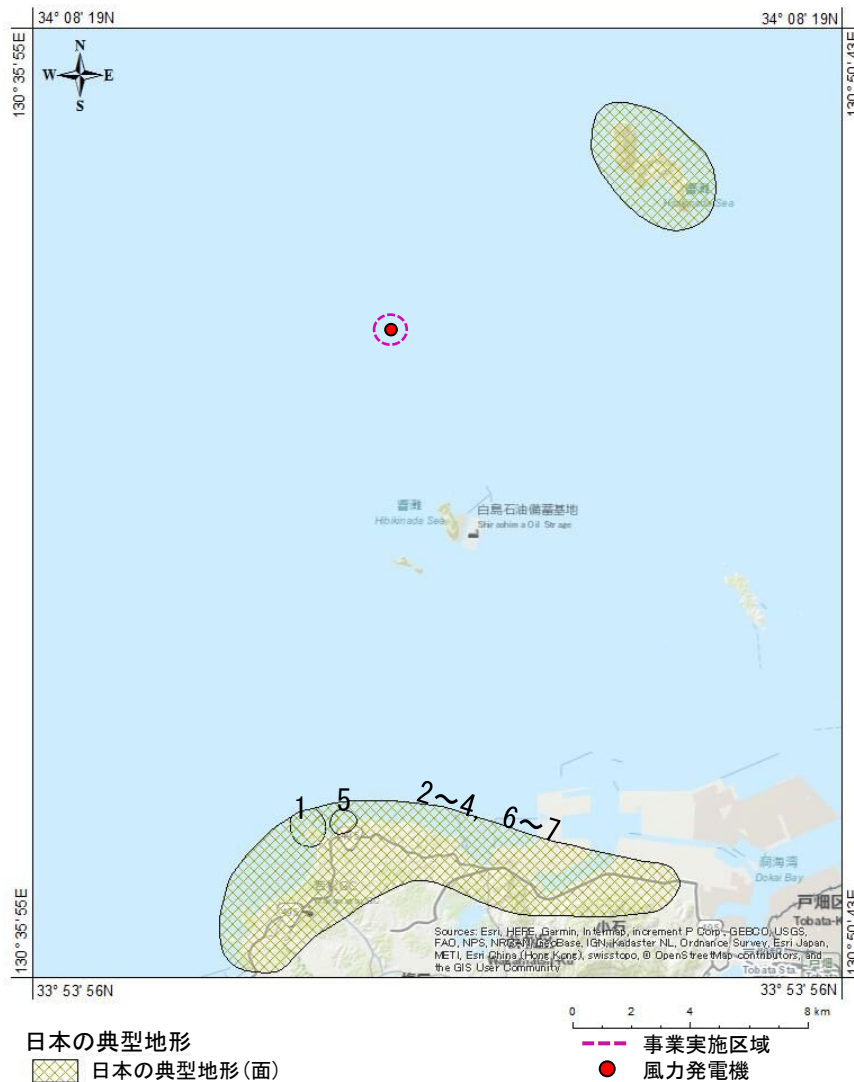
### (3) 重要な地形・地質

「日本の典型地形，国土地理院」において、北九州市若松区において千畳敷等の地形が確認されている（表 3.1-26、図 3.1-18 参照）。

表 3.1-26 重要な地形・地質

NO	名称	所在地	地形項目	備考
1	遠見ヶ鼻	北九州市若松区	ハチの巣状構造	玄海国立公園
2	脇田～岩屋海岸	北九州市若松区	岩石海岸	玄海国立公園
3	千畳敷	北九州市若松区	波食棚	玄海国立公園
4	脇田～岩屋海岸	北九州市若松区	海食台	玄海国立公園
5	千畳敷	北九州市若松区岩屋	鬼の洗濯岩	玄海国立公園
6	脇田～岩屋海岸	北九州市若松区	海食崖	玄海国立公園
7	脇田～岩屋海岸	北九州市若松区	ノッチ	玄海国立公園

出典：「日本の典型地形」（国土地理院 HP）（[http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei\\_top.html](http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei_top.html)）（令和 4 年 6 月閲覧）：表中の番号は図の番号に同じ。



出典：「日本の典型地形」（国土地理院 HP）  
（[http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei\\_top.html](http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei_top.html)）（令和 4 年 6 月閲覧）

図 3.1-18 重要な地形・地質位置図

### 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

#### 1. 植物の生育状況

##### (1) 陸域における植物

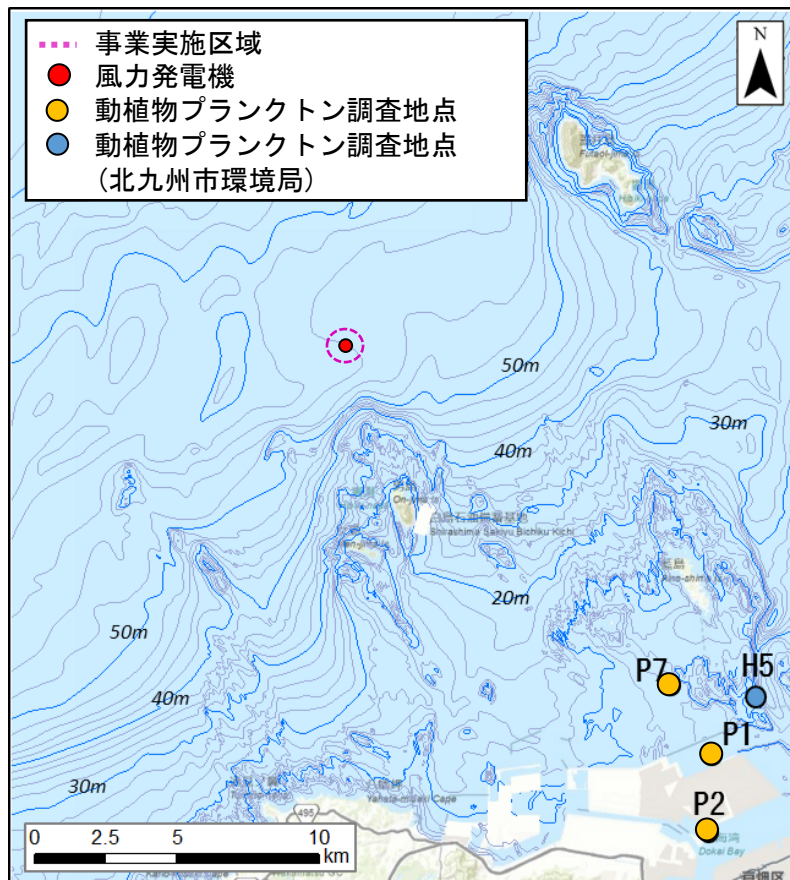
陸域における植物としては、維管束植物、藻類が該当するが、事業実施区域は北九州市沖合であることから、植物の生育状況としては海域における植物を対象とし、本項では対象外とする。

なお、若松区には重要な群落として、芦屋海岸のトベラ低木林、須賀神社のスタジイ林及び白山神社のタブノキ林が特定植物群落に指定されている。その内、海岸沿いに位置するものとしては芦屋海岸のトベラ低木林が挙げられるが、事業実施区域には該当しない。

##### (2) 海域における植物

##### ① 植物プランクトンの状況

事業実施区域における植物プランクトンに関する情報は得られていない。事業実施区域周辺の植物プランクトンについては、若松区沿岸部において、平成 21 年 3 月、8 月、11 月、平成 22 年 1 月に北九州市港湾空港局により調査が行われている。調査地点は図 3.1-19 に、植物プランクトンの調査結果を表 3.1-27 に示す。



出典：「平成 21 年度港湾計画環境アセスメント現況調査その 2（水質、底質、海生生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社、平成 22 年 3 月）、「令和 3 年度版北九州市の環境」（北九州市環境局、令和 3 年 9 月）

図 3.1-19 動植物プランクトンの調査地点

植物プランクトンの季節ごとの出現種数は35～68種であり、春季で少なく、夏季で多かった。平均細胞数については、冬季で少なく、夏季で多かった。また、冬季以外の3季については、珪藻類が高い割合を占めた。沿岸部では、内陸部を含めて、夏季においては、赤潮現象も見られることから、珪藻類の増殖が考えられる。

表 3.1-27 植物プランクトンの調査結果

項目		春季 平成21年3月		夏季 平成21年8月	
出現種数	珪藻類	25	71.4%	48	70.6%
	渦鞭毛藻類	6	17.1%	16	23.5%
	その他	4	11.4%	4	5.9%
	合計	35	100.0%	68	100.0%
平均出現種数		18		46	
[最小～最大]		[16～21]		[39～54]	
平均細胞数 (細胞/L)	珪藻類	35,045	51.9%	918,373	95.4%
	渦鞭毛藻類	8,072	12.0%	6,530	0.7%
	その他	24,405	36.1%	37,893	3.9%
	合計	67,522	100.0%	962,796	100.0%
	[最小～最大]	[30,448～90,360]		[267,160～2,325,180]	
細胞数からみた主要種	<i>Asterionella glacialis</i> 珪藻類	42.6%		<i>Skeletonema</i> sp. (cf. <i>tropicum</i> ) 珪藻類	24.7%
	Cryptophyceae クリプト藻類	26.1%		<i>Thalassiosira</i> spp. 珪藻類	24.0%
	<i>Gymnodiniales</i> 渦鞭毛藻類	11.5%		<i>Chaetoceros</i> sp. (cf. <i>salsugineum</i> ) 珪藻類	13.3%

項目		秋季 平成21年11月		冬季 平成22年1月	
出現種数	珪藻類	24	60.0%	2	4.8%
	渦鞭毛藻類	9	22.5%	35	83.3%
	その他	7	17.5%	5	11.9%
	合計	40	100.0%	42	100.0%
平均出現種数		19		24	
[最小～最大]		[13～26]		[20～29]	
平均細胞数 (細胞/L)	珪藻類	32,403	52.6%	10	0.0%
	渦鞭毛藻類	2,952	4.8%	11,930	57.2%
	その他	26,220	42.6%	8,920	42.8%
	合計	61,575	100.0%	20,860	100.0%
	[最小～最大]	[3,105～138,255]		[14,955～24,945]	
細胞数からみた主要種	<i>Nitzschia</i> spp. 珪藻類	31.1%		<i>Chaetoceros sociale</i> 珪藻類	20.3%
	Cryptophyceae クリプト藻類	23.8%		Prasinophyceae ブラシノ藻類	16.7%
	Prasinophyceae ブラシノ藻類	17.0%		<i>Skeletonema costatum</i> 珪藻類	13.4%

注1) 出現種数は、全調査地点を通しての種類数。

注2) 平均出現種数は、調査地点1地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社パスコ、平成21年3月）「平成21年度港湾計画環境アセスメント現況調査その2（水質、底質、海生生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社、平成22年3月）より作成。

また、北九州市環境局が毎年、響灘（測定点 H5）においてプランクトン調査を実施している。令和 2 年度調査の植物プランクトンの結果を表 3.1-28 に示す。キートケロス等の珪藻類が他の藻類に比較して年間を通じて多く確認されているものの、特に赤潮の影響は見られていないとされる。

表 3.1-28 植物プランクトンの調査結果

		水域名：響灘 測定点：H5 表層											
測 定 月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
細菌類	糸状細菌												
藍藻類	クロオコックス科												
ナリフト藻類	クリプトモナス科		●●										●●
渦鞭毛藻類	フロロケントルム		●			●●							●●
	ディノフィシス科												●
	ギムノディニウム												
	カレニア												
	アレキサンドリウム												
その他		●				●						●	
黄金色藻類	ディクチオカ目		●										
	バディネラ目		●										
	その他												●
ラフィット藻類	シャットネラ					●							
	シャットネラ (有毒種)												
	ヘテロシグマ												
	フィプロカプサ												
珪藻類	キクロテラ												
	スケレトネマ		●				●●●						●●●
	タラシオシラ		●				●●						●●
	レプトキリンドルス		●●										●●
	リゾソレニア		●				●						●
	ケラタウリナ												
	ニューカムビア		●										●●
	キートケロス		●●				●●●						●●
	アステリオネラ												●●
	タラシオネマ						●						●
	ニッチア		●										●
	プセウドニッチア		●●				●●●						●●
	その他		●				●●						●
	ミドリムシ	ユーグレナ+コートレプティエラ		●			●						
藻類	その他												
ブラシノ藻	ピラミモナス												
	その他												●
緑藻類	オルトマンシエラ												
	その他												
その他の微小プランクトン		●●●				●●					●●	●●	

プランクトン細胞数 (細胞/㎖)

0 =       0 <  < 10      10 ≤  < 100

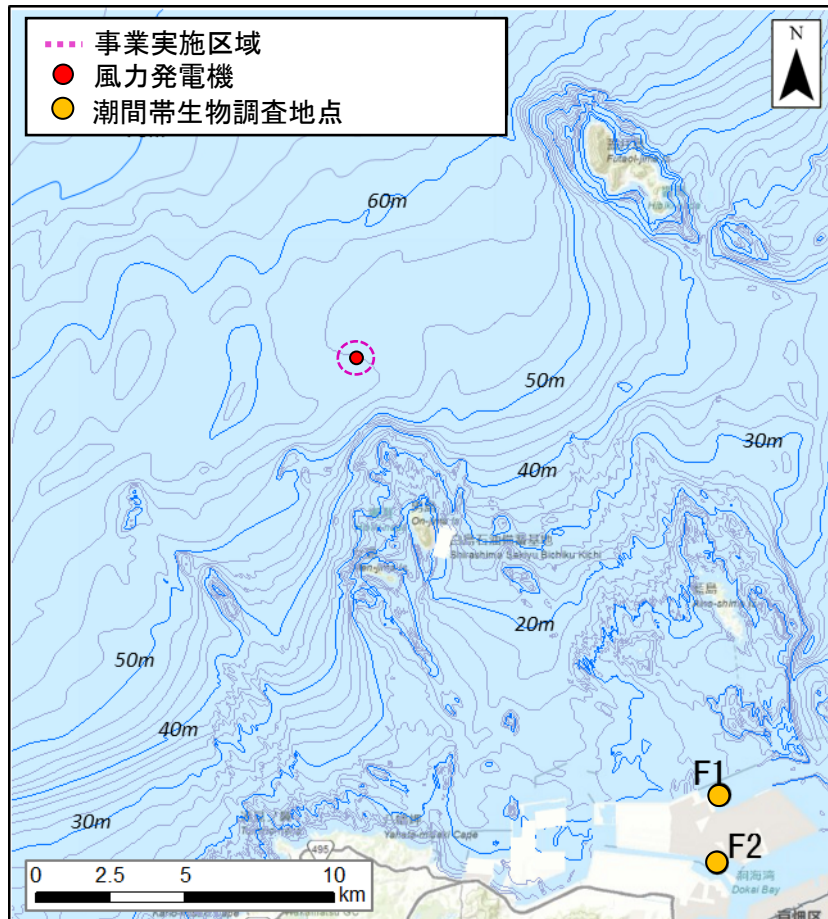
100 ≤  < 1,000      1,000 ≤  < 10,000      10,000 ≤

注) その他の微小プランクトンには動物プランクトンも含まれている。  
 出典: 「令和 3 年度版 北九州市の環境」(北九州市環境局、令和 3 年 9 月)



## ② 潮間帯生物の状況

事業実施区域周辺の潮間帯生物については、平成 21 年 3 月、8 月、11 月及び平成 22 年 1 月に北九州市港湾空港局により調査が行われている。調査地点は図 3.1-20 に、潮間帯付着植物の調査結果を表 3.1-29～表 3.1-30 に示す。



出典：「平成 21 年度港湾計画環境アセスメント現況調査その 2（水質、底質、海生生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社，平成 22 年 3 月）

図 3.1-20 潮間帯生物の調査地点

### a. 付着植物

<上層>

付着植物は確認されなかった。

<中層>

付着植物の出現種類数は 17～25 種であり、春季で多く秋季で少なかった。分類別では、各季において紅藻類が最も高い割合を占めた。

平均湿重量については、冬季で多く、春季で少なかった。分類別では、各季において褐藻類が最も高い割合を占めた。

表 3.1-29 付着植物の調査結果（中層）

項目		春季 平成21年3月		夏季 平成21年8月	
出現種数	緑藻類	4	16.0%	2	10.0%
	褐藻類	3	12.0%	2	10.0%
	紅藻類	18	72.0%	16	80.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
	合計	25	100.0%	20	100.0%
平均出現種数		14		11	
[最小～最大]		[10～17]		[8～14]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	緑藻類	2.61	8.2%	3.13	5.5%
	褐藻類	22.98	71.9%	47.66	83.4%
	紅藻類	6.36	19.9%	6.39	11.2%
	その他	0.00	0.0%	0.00	0.0%
	合計	31.95	100.0%	57.18	100.0%
[最小～最大]		[20.36～43.53]		[16.82～97.51]	
湿重量からみた主要種		ヒジキ 褐藻類	48.0%	ヒジキ 褐藻類	79.0%
		ワカメ 褐藻類	23.9%	アオサ属 褐藻類	5.5%
		イトグサ属 紅藻類	14.4%	アミジグサ 紅藻類	4.4%
		秋季 平成21年11月		冬季 平成22年1月	
出現種数	緑藻類	3	17.6%	2	9.1%
	褐藻類	2	11.8%	2	9.1%
	紅藻類	12	70.6%	17	77.3%
	その他	0	0.0%	1	4.5%
	合計	17	100.0%	22	100.0%
平均出現種数		10		14	
[最小～最大]		[6～13]		[6～17]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	緑藻類	0.10	0.3%	2.14	2.6%
	褐藻類	29.58	75.7%	72.24	87.7%
	紅藻類	9.38	24.0%	7.92	9.6%
	その他	0.00	0.0%	0.04	0.0%
	合計	39.06	100.0%	82.34	100.0%
[最小～最大]		[18.63～59.46]		[19.84～144.83]	
湿重量からみた主要種		ヒジキ 褐藻類	75.7%	ヒジキ 褐藻類	87.7%
		マクサ 紅藻類	18.8%	ウスカワニホ 紅藻類	7.1%
		マサゴシバリ 紅藻類	2.4%	コザネモ 紅藻類	1.8%

注1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。

注2) 平均出現種数は、調査地点1地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社パスコ、平成21年3月）

「平成21年度港湾計画環境アセスメント現況調査その2（水質、底質、海生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社、平成22年3月）より作成。

<下層>

付着植物の出現種類数は20～27種であり、春季及び冬季で多く、夏季及び秋季で少なかった。分類別では、各季において紅藻類が最も高い割合を占めた。

平均湿重量については、秋季で多く、冬季で少なかった。分類別では、春季、秋季及び冬季では褐藻類が、また、夏季では紅藻類が高い割合を占めた。

表 3.1-30 付着植物の調査結果（下層）

項目		春季 平成21年3月		夏季 平成21年8月	
出現種数	緑藻類	3	11.5%	2	10.0%
	褐藻類	4	15.4%	2	10.0%
	紅藻類	19	73.1%	16	80.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
	合計	26	100.0%	20	100.0%
平均出現種数		12		12	
[最小～最大]		[9～15]		[8～15]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	緑藻類	0.74	2.2%	0.00	0.0%
	褐藻類	23.42	70.3%	2.07	13.5%
	紅藻類	9.14	27.4%	13.27	86.5%
	その他	0.00	0.0%	0.00	0.0%
	合計	33.30	100.0%	15.34	100.0%
[最小～最大]		[12.19～54.41]		[23.90～139.58]	
湿重量からみた主要種		ワカメ 褐藻類	67.0%	ウスカワカニノテ 紅藻類	46.2%
		ユカリ 紅藻類	7.9%	タマハハキモク 褐藻類	13.4%
		ツノマタ属 紅藻類	4.0%	フシツナギ 紅藻類	11.6%
項目		秋季 平成21年11月		冬季 平成22年1月	
出現種数	緑藻類	2	10.0%	3	11.1%
	褐藻類	5	25.0%	6	22.2%
	紅藻類	13	65.0%	17	63.0%
	その他	0	0.0%	1	3.7%
	合計	20	100.0%	27	100.0%
平均出現種数		11		14	
[最小～最大]		[10～12]		[13～15]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	緑藻類	0.00	0.0%	0.06	1.0%
	褐藻類	37.17	77.2%	3.83	62.1%
	紅藻類	10.95	22.8%	2.26	36.6%
	その他	0.00	0.0%	0.02	0.3%
	合計	48.12	100.0%	6.17	100.0%
[最小～最大]		[21.86～74.37]		[2.32～10.02]	
湿重量からみた主要種		ヒジキ 褐藻類	73.4%	タマハハキモク 褐藻類	23.30%
		ウスカワカニノテ 紅藻類	13.5%	ウミウチワ 褐藻類	22.1%
		ユカリ 紅藻類	5.3%	ヒジキ 褐藻類	15.4%

注1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。

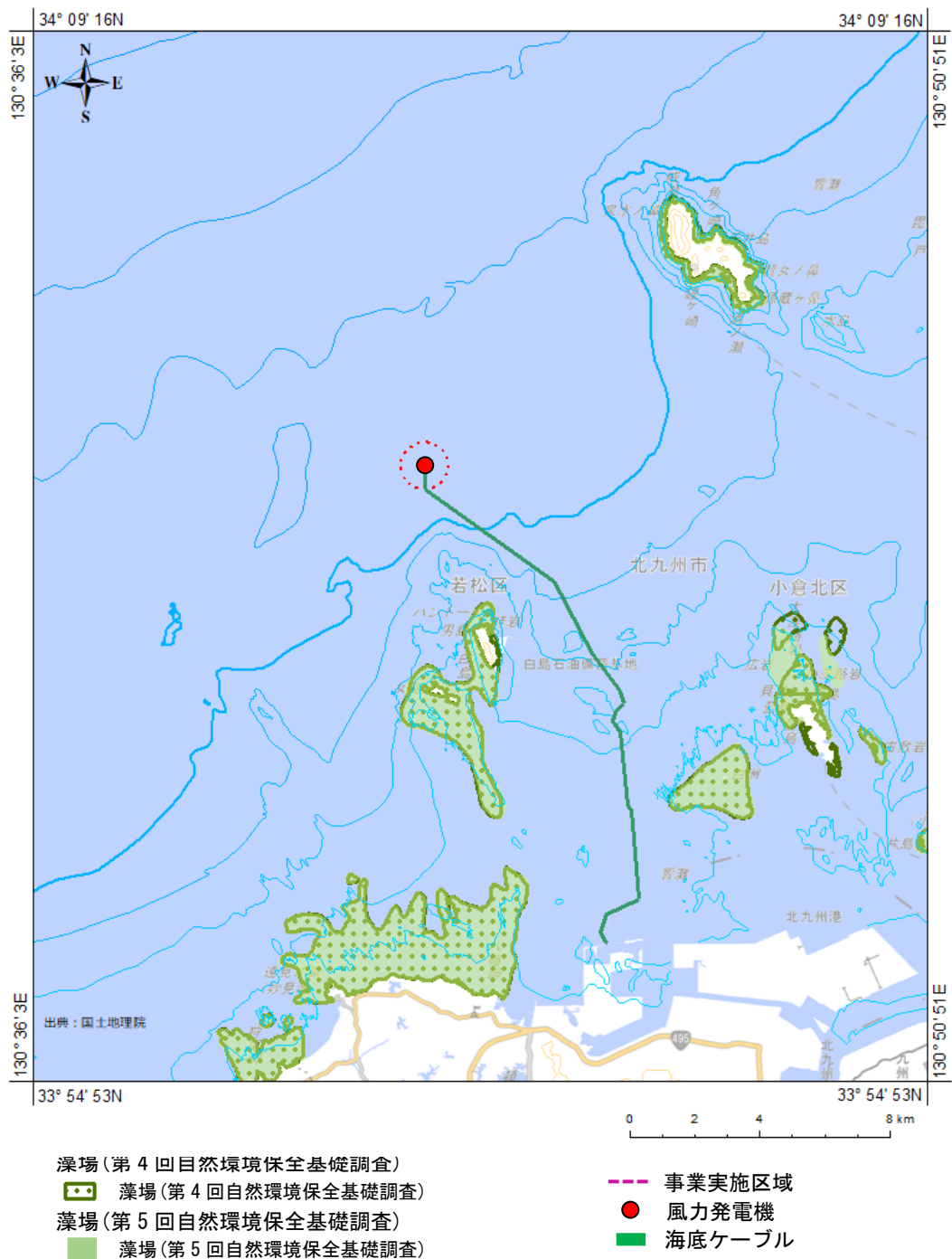
注2) 平均出現種数は、調査地点1地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社パスコ、平成21年3月）

「平成21年度港湾計画環境アセスメント現況調査その2（水質・底質、海生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社、平成22年3月）より作成。

### ③ 藻場の状況

事業実施区域には藻場の存在は確認されていない。また、事業実施区域周辺の藻場については、「第4回自然環境保全環境基礎調査（平成元年～平成4年）」及び「第5回自然環境保全環境基礎調査（平成9年～平成13年）」によると、響灘海域の沿岸部や島嶼部における浅瀬の岩礁部にはホンダワラ類によって構成されるガラモ場やアラメやツルアラメ等の大型褐藻で構成されるアラメ場が見られる（図3.1-21参照）。



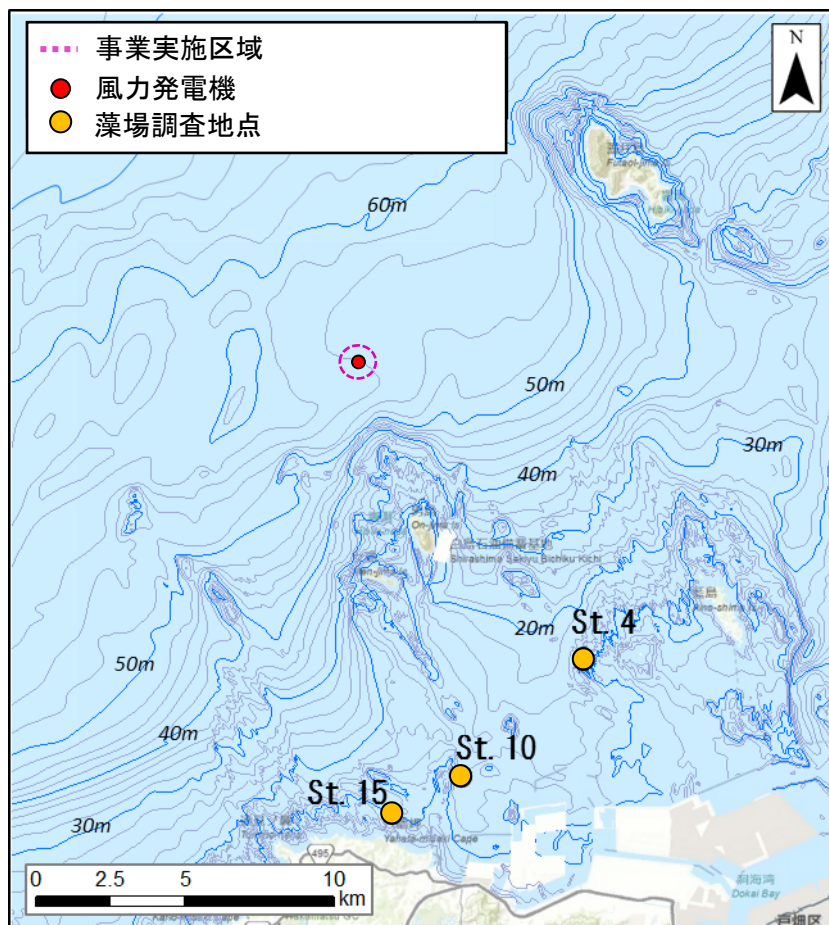
出典：「第4回自然環境保全基礎調査（平成元年～4年）」及び「第5回自然環境保全基礎調査（平成9年～13年）」（環境省）

図 3.1-21 藻場の分布状況

また、平成8年2月、4月、6月及び9月には北九州市港湾空港局により藻場調査が行われている。調査地点は図3.1-22に、藻場採取調査の結果を表3.1-31に示す。

採取調査では14～43種が出現し、冬季に多く、秋季で少なかった。湿重量は春季で多く、秋季で少なかった。

植物門別にみると、種類数は冬季及び春季では紅藻植物門が、夏季及び秋季では褐藻植物門が多かった。また、湿重量は四季を通じて褐藻植物門が多かった。



出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査業務委託報告書」（北九州市港湾局，平成8年11月）

図 3.1-22 藻場の調査地点

表 3.1-31 藻場採取調査の結果

項目		冬季 平成8年2月		春季 平成8年4月	
出現種数	緑藻植物門	4	(9.3)	2	(7.7)
	褐藻植物門	14	(32.6)	11	(42.3)
	紅藻植物門	25	(58.1)	13	(50.0)
	合計	43	(100.0)	26	(100.0)
平均出現種数 [最小～最大]		23 [20～27]		15 [12～20]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	緑藻植物門	11.9	(0.1)	0	0.0
	褐藻植物門	16,661.6	(98.5)	68,869.6	(99.6)
	紅藻植物門	235.6	(1.4)	291.8	(0.4)
	合計 [最小～最大]	16,909.1 [3,056.6～8,624.2]	(100.0)	69,161.4 [18,572.4～30,104.6]	(100.0)
主な出現種 「個体数組成比率 (%)」		褐藻植物門 ワカメ ツルアラメ アラメ アカモク エンドウモク	(38.5) (22.5) (18.5) (10.2) (3.6)	褐藻植物門 ツルアラメ アラメ エンドウモク ワカメ マメタワラ	(39.4) (25.3) (11.5) (10.2) (5.1)

項目		夏季 平成8年6月		秋季 平成8年9月	
出現種数	緑藻植物門	3	(13.0)	3	(21.4)
	褐藻植物門	13	(56.5)	8	(57.1)
	紅藻植物門	7	(30.4)	3	(21.4)
	合計	23	(100.0)	14	(100.0)
平均出現種数 [最小～最大]		11 [9～15]		8 [4～10]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	緑藻植物門	35.9	(0.1)	34.4	(0.8)
	褐藻植物門	41,763.8	(99.8)	4,191.2	(98.6)
	紅藻植物門	52.6	(0.1)	26.0	(0.6)
	合計 [最小～最大]	41,852.3 [9,836.0～20,124.3]	(100.0)	4,251.6 [1,222.8～12,654.2]	(100.0)
主な出現種 「個体数組成比率 (%)」		褐藻植物門 ツルアラメ アラメ エンドウモク ノコギリモク ワカメ	(39.3) (33.6) (22.6) (1.4) (1.3)	褐藻植物門 アラメ ツルアラメ ノコギリモク エンドウモク マメタワラ ウスバノコギリモク	(53.4) (33.2) (10.8) (1.3) (0.5) (0.5)

注 1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。( ) 内の数字は種組成比率を示す。

注 2) 平均出現種数は、調査地点 1 地点あたりの出現種数。[ ] 内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査業務委託報告書」(北九州市港湾局, 平成 8 年 11 月)

## 2. 動物の生息状況

### (1) 陸域における動物

陸域における動物としては、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類が該当するが、事業実施区域は北九州市沖合であることから、動物の生息状況としては実施区域までの広い行動範囲が想定される鳥類を対象とした。

#### ① 鳥類の状況

文献調査の結果は表 3.1-32～表 3.1-40 に示すとおりであり、北九州市では計 336 種の鳥類の確認記録（表中の○及び◎）があった。うち天然記念物、種の保存法、環境省レッドリスト、福岡県レッドデータブックに該当する重要な種としては、111 種が挙げられる。

なお、響灘に面する地域では 86 種の確認記録（表中の◎）があり、うち重要な種は、オオミズナギドリ、ヒメクロウミツバメ、ヒメウ、サンカノゴイ、ヨシゴイ、アマサギ、チュウサギ、クロサギ、クロツラヘラサギ、コクガン、マガン、ヒシクイ、アカツクシガモ、トモエガモ、シノリガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ハチクマ、オジロワシ、チュウビ、ハヤブサ、コチョウゲンボウ、クイナ、シロチドリ、ケリ、ヘラシギ、ホウロクシギ、セイタカシギ、ツバメチドリ、エリグロアジサシ、コアジサシ、ウミスズメ、カンムリウミスズメ、カラスバト、コミミズク、コマドリ、オオヨシキリ、ツリスガラ、コジュリンの計 39 種であった。

表 3.1-32 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種（1/9）

目名	科目	種名	渡り * 1	繁殖 * 2	頻度 * 3	確認記録				指定状況			
						① 野鳥 北九州 の 多 様 性	② 北 九 州 の 回 廊	③ 響 灘	④ 福 岡 県 R D B	A 天 然 記 念 物	B 種 の 保 存 法	C 環 境 省 R L	D 福 岡 県 R D B
キジ	キジ	ウズラ	冬	少	○	○					NT	DD	
		ヤマドリ	留	●	普	○		○					VU
		キジ	留	●	普	○		◎					
カモ	カモ	サカツラガン	迷	稀	○							DD	
		ヒシクイ	迷	少	◎				国天			VU	
		ハイイロガン	迷	稀	◎								
		マガン	冬	少	◎				国天			NT	
		コクガン	冬	少	◎				国天			VU	
		コハクチョウ	冬	少	◎								
		オオハクチョウ	冬	稀	◎								
		ツクシガモ	冬	普	○			○				EN	NT
		アカツクシガモ	迷	稀	◎							DD	
		オシドリ	留	●	普	○		○				DD	NT
		オカヨシガモ	冬	少	○			◎					
		ヨシガモ	冬	少	○								
		ヒドリガモ	冬	普	○								
		アメリカヒドリ	冬	少	○								
		マガモ	冬	普	○								
カルガモ	留	●	普	◎		◎							
ハシビロガモ	冬	普	○										

表 3.1-33 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (2/9)

目名	科目	種名	渡り*1	繁殖*2	頻度*3	確認記録				指定状況			
						① 野鳥一覽	② 北九州の 生物多様性	③ 北九州 緑の回廊 響灘	④ 福岡県 RDB	A 天然記念物	B 種の保存法	C 環境省 RL	D 福岡県 RDB
カモ	カモ	オナガガモ	冬	普	○								
		シマアジ	旅	少	○								
		トモエガモ	冬	少	◎							VU	VU
		コガモ	冬	普	○								
		アカハジロ	迷	稀	○	○						DD	
		オオホシハジロ	迷	稀	○								
		ホシハジロ	冬	普	○								
		キンクロハジロ	冬	普	○								
		スズガモ	冬	普	○								
		シノリガモ	迷	稀	◎								VU
		ビロードキンクロ	冬	少	○								
		クロガモ	冬	少	○								VU
		ヒメハジロ	迷	稀	○								
		ホオジロガモ	冬	普	○								VU
		ミコアイサ	冬	少	◎				○				VU
カワアイサ	冬	少	○										
ウミアイサ	冬	普	○										
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留	●	普	○	○	◎					
		アカエリカイツブリ	冬	少	○							VU	
		カンムリカイツブリ	冬	普	○							NT	
		ミミカイツブリ	冬	少	◎								
		ハジロカイツブリ	冬	少	○								
ハト	ハト	カラスバト	留	●	普	◎	○			国天		NT	VU
		キジバト	留	●	普	○							
		アオバト	留	●	普	◎							
アビ	アビ	アビ	冬	少	○								
		オオハム	冬	普	○								
		シロエリオオハム	冬	稀	○							NT	
ミズナギドリ	ミズナギドリ	オオミズナギドリ	夏	●	普	◎							
		ハイイロミズナギドリ	迷	稀	◎								
		ハシボソミズナギドリ	旅	稀	◎								
		ウミツバメ	迷	稀	◎						VU	CR	
コウノトリ	コウノトリ	迷	稀	○				国特天	国内	CR			
カツオドリ	グンカンドリ	コグンカンドリ	迷	稀	◎								
		アカアシカツオドリ	迷	稀	○						EN		
		カツオドリ	迷	稀	○								
	ウ	ヒメウ	冬	少	◎						EN		
		カワウ	冬	普	○								
		ウミウ	留	●	普	◎							
ペリカン	サギ	サンカノゴイ	冬	少	◎		◎	○			EN	NT	
		ヨシゴイ	夏	●	少	◎					NT	CR	
		オオヨシゴイ	旅	●	稀	○					EN		
		ミゾゴイ	夏	●	少	○					EN	EN	
		ゴイサギ	留	●	普	◎							
		ササゴイ	夏	●	普	○							NT



表 3.1-34 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (3/9)

目名	科目	種名	渡り * 1	繁殖 * 2	頻度 * 3	確認記録				指定状況					
						①	②	③	④	A	B	C	D		
						野鳥一 覧	北九州 の 生物多 様性	北九州 の 緑の回 廊	響灘	福岡県 R D B	天然記念 物	種の保存 法	環境省 R L	福岡県 R D B	
ペリカン	サギ	アカガシラサギ	迷	稀	○										
		アマサギ	夏	●	普	◎			○					NT	
		アオサギ	留	●	普	◎									
		ムラサキサギ	迷	少	○			◎							
		ダイサギ	留	●	普	◎									
		チュウサギ	夏	●	少	◎				○			NT	NT	
		コサギ	留	●	普	◎		○							
		クロサギ	留	●	少	◎			◎	○					NT
	カラシラサギ	迷	少	○		○			○				NT	EN	
	トキ	ヘラサギ	冬	少	○				○					DD	EN
	クロツラヘラサギ	冬	少	◎		○							CR	EN	
ツル	ツル	マナヅル	旅	少	○							国際	VU		
		ナベヅル	旅	少	○							国際	VU		
		アネハヅル	迷	稀	◎										
	クイナ	クイナ	冬	少	◎										NT
		シロハラクイナ	迷	稀	◎										
		ヒメクイナ	旅	稀	◎								NT	NT	
		ヒクイナ	留	●	普	◎									
		バン	留	●	普	◎									
		ツルクイナ	旅	少	○										
		オオバン	留	●	普	◎									
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	旅	普	○										
		ホトトギス	夏	●	普	○									
		セグロカッコウ	迷	稀	○										
		ツツドリ	夏	普	○									NT	
		カッコウ	夏	普	○										
ヨタカ	ヨタカ	夏	●	普	○							NT	EN		
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	旅	少	○										
		アマツバメ	夏	●	普	○									
		ヒメアマツバメ	旅	少	◎										
チドリ	チドリ	タゲリ	冬	普	○					○				NT	
		ケリ	留	●	少	◎				○				DD	NT
		ムナグロ	旅	普	○										
		ダイゼン	冬	普	○										
		ハジロコチドリ	旅	少	○										
		イカルチドリ	留	少	○									VU	
		コチドリ	留	●	普	◎			◎						
		シロチドリ	留	●	普	◎		○		○				VU	NT
		メダイチドリ	旅	普	○										
		オオメダイチドリ	旅	少	○										
	ミヤコドリ	冬	少	○					○					VU	
	セイタカシギ	セイタカシギ	旅	少	◎				◎					VU	
		ソリハシセイタカシギ	迷	稀	○										
	シギ	ヤマシギ	冬	少	○										
アオシギ		冬	稀	○											

表 3.1-35 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (4/9)

目名	科目	種名	渡り*1	繁殖*2	頻度*3	確認記録				指定状況				
						①	②	③	④	A	B	C	D	
						野鳥一覧	北九州の生物多様性	北九州の緑の回廊	福岡県RDB	天然記念物	種の保存法	環境省RL	福岡県RDB	
チドリ	シギ	オオジシギ	旅	少	○	○						NT		
		チュウジシギ	旅	少	○									
		タシギ	冬	普	○									
		オオハシシギ	旅	少	○									
		シベリアオオハシシギ	旅	稀	○								DD	
		オグロシギ	旅	普	○									NT
		オオソリハシシギ	旅	普	○				○				VU	NT
		コシャクシギ	旅	少	○							国際	EN	
		チュウシャクシギ	旅	普	○									
		ダイシャクシギ	冬	普	○				○					VU
		ホウロクシギ	旅	普	○			◎	○				VU	VU
		ツルシギ	旅	普	○									
		アカアシシギ	旅	少	○		○						VU	
		コアアシシギ	旅	少	○									
		アオアシシギ	旅	普	○			◎						
		カラフトアオアシシギ	旅	稀	○		○					国内	CR	CR
		クサシギ	冬	少	○									
		タカブシギ	旅	普	○				○				VU	VU
		キアシシギ	旅	普	○									
		ソリハシシギ	旅	普	○									
		イソシギ	留	普	○									
		キョウジョシギ	旅	少	○									
		オバシギ	旅	少	○									
		コオバシギ	旅	少	○									
		ミユビシギ	旅	少	○									NT
		トウネン	旅	普	○									
		オジロトウネン	旅	少	○									
		ヒバリシギ	旅	少	○									
		アメリカウズラシギ	旅	稀	○									
		ウズラシギ	旅	普	○		○		○					VU
		サルハマシギ	旅	少	○									
		ハマシギ	旅	普	○								NT	NT
		ヘラシギ	旅	少	◎								CR	CR
		キリアイ	旅	少	○									
		コモンシギ	迷	稀	◎									
		エリマキシギ	旅	少	○									
		アカエリヒレアシシギ	旅	普	○									
		ハイロヒレアシシギ	旅	稀	○									
		タマシギ	タマシギ	留	●	普	○						VU	NT
		ツバメチドリ	ツバメチドリ	旅	少	◎			◎	○			VU	VU
		カモメ	クロアジサシ	迷	稀	○								
オオズグロカモメ	迷		稀	○										
ミツユビカモメ	冬		少	◎										
ユリカモメ	冬		普	○										
ズグロカモメ	冬	普	○		○		○				VU	VU		

表 3.1-36 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (5/9)

目名	科目	種名	渡り * 1	繁殖 * 2	頻度 * 3	確認記録				指定状況					
						①	②	③	④	A	B	C	D		
						野鳥 北九州 の 多 様 性	北 九 州 の 緑 の 回 廊	響 灘	福 岡 県 R D B	天 然 記 念 物	種 の 保 存 法	環 境 省 R L	福 岡 県 R D B		
チドリ	カモメ	ゴビズキンカモメ	迷	稀	○										
		ウミネコ	留	普	○										
		カモメ	冬	普	○										
		シロカモメ	冬	少	◎										
		セグロカモメ	冬	普	○										
		オオセグロカモメ	冬	普	○										
		ハシブトアジサシ	迷	稀	○										
		オニアジサシ	迷	稀	○										
		オオアジサシ	迷	稀	○									VU	
		コアジサシ	夏	●	普	◎	◎	◎	○		国際	VU	VU		
		ベニアジサシ	迷	稀	○				○			VU	EN		
		エリグロアジサシ	迷	稀	◎							VU			
		アジサシ	旅	少	○	◎									
		クロハラアジサシ	旅	稀	○										
		ウミスズメ	ウミスズメ	冬	少	◎								CR	NT
	カンムリウミスズメ	冬	稀	◎	○				国天		VU	CR			
タカ	ミサゴ	ミサゴ	留	●	普	◎	◎	◎					NT	NT	
	タカ	ハチクマ	旅	普	○								NT	NT	
		トビ	留	●	普	○									
		オオジロワシ	冬	稀	◎				国天	国内	VU				
		チュウヒ	留	●	普	◎	○	◎	○				EN	CR	
		ハイロチュウヒ	冬	少	○				○					NT	
		マダラチュウヒ	迷	稀	○										
		アカハラダカ	旅	少	○										
		ツミ	留	普	○									VU	
		ハイタカ	冬	普	○								NT		
		オオタカ	冬	少	○	○				国内	NT	NT			
		サシバ	夏	●	普	○	○					VU	NT		
		ノスリ	留	●	普	○								NT	
		オオノスリ	迷	稀	○										
		ケアシノスリ	迷	稀	◎										
		カタシロワシ	迷	稀	○										
		イヌワシ	迷	稀	○					国天	国内	EN			
		クマタカ	迷	稀	○	○		○			国内	EN	EN		
	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	旅	少	○									
			コノハズク	旅	少	○	○								
リュウキュウコノハズク			夏	●	稀	◎									
フクロウ			留	●	普	○									
アオバズク			夏	●	普	○	○								
トラフズク			冬	少	◎										
	コミミズク	冬	普	○		◎	○						VU		
ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	夏	少	○	○		○						VU	
		ヤマショウビン	迷	稀	◎										
		カワセミ	留	●	普	◎	◎	◎							

表 3.1-37 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (6/9)

目名	科目	種名	渡り * 1	繁殖 * 2	頻度 * 3	確認記録				指定状況				
						①	②	③	④	A	B	C	D	
						野鳥 北九州 の 多 様 性	北九州 の 緑 の 回 廊	響 灘	福岡 県 R D B	天然 記念 物	種 の 保 存 法	環 境 省 R L	福 岡 県 R D B	
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	留	●	少	○								
	ブッポウソウ	ブッポウソウ	夏		稀	○						EN	CR	
サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	旅		少	◎		◎						
キツツキ	キツツキ	アリスイ	冬		少	○								
		コゲラ	留	●	普	◎								
		オオアカゲラ	留		稀	○							VU	
		アオゲラ	留	●	普	○								
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	冬		普	○								
		アカアシチョウゲンボウ	迷		稀	○								
		コチョウゲンボウ	冬		少	○		◎	○				NT	
		チゴハヤブサ	旅		少	○								
		ハヤブサ	留	●	普	◎	○	◎	○		国内	VU	VU	
											国内	EN	EN	
スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	旅		稀	○								
	サンショウクイ	サンショウクイ												
		亜種サンショウクイ		夏	●	普	○						VU	CR
		亜種リュウキュウサンショウクイ		迷		稀	○							
	コウライウグイス	コウライウグイス	旅	●	稀	○								
	カササギヒタキ モズ	サンコウチュウ		夏	●	普	○			○				VU
		チゴモズ		旅		稀	○						CR	
		モズ		留	●	普	◎							
		アカモズ												
		亜種アカモズ		旅	●	少	○						EN	
		タカサゴモズ		迷		稀	◎							
		オオモズ		迷		稀	○							
	カラス	カケス		留		普	○							
		オナガ		絶滅										EX
		カササギ		迷		稀	○	○						
		コクマルガラス		冬		少	○							
		ミヤマガラス		冬		普	○							
		ハシボソガラス		留	●	普	○							
		ハシブトガラス		留	●	普	○							
キクイタダキ	キクイタダキ	冬		普	○									
ツリスガラ	ツリスガラ	冬		普	◎							NT		
シジュウカラ	コガラ		迷		稀	○							DD	
	ヤマガラ		留	●	普	○								
	ヒガラ		迷		稀	○								
	シジュウカラ		留	●	普	○	○							
ヒバリ	ヒメコウテンシ		旅		稀	○								
	コヒバリ		旅		稀	○								
	ヒバリ													
	亜種 オオヒバリ		冬		普	○								
	亜種 ヒバリ		留	●	普	○								
ツバメ	ショウドウツバメ		旅		少	○								
	ツバメ		夏	●	普	○								
	コシアカツバメ		夏	●	普	○							NT	

表 3.1-38 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (7/9)

目名	科目	種名	渡り * 1	繁殖 * 2	頻度 * 3	確認記録				指定状況				
						①	②	③	④	A	B	C	D	
						野鳥 北九州 の 一覧	生物 多様 性 北九州	緑の 回廊	福岡 県 R D B	天然 記念 物	種 の 保 存 法	環 境 省 R L	福 岡 県 R D B	
スズメ	ツバメ	イワツバメ	留	●	普	○								
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留	●	普	○								
	ウグイス	ウグイス	留	●	普	○	○							
		ヤブサメ	夏	●	普	○								
	エナガ	エナガ	留	●	普	○								
	ムシクイ	ムジセッカ	旅		稀	○								
		キマユムシクイ	迷		稀	○								
		メボソムシクイ												
		亜種コメボソムシクイ	旅		普	○								
		亜種メボソムシクイ	旅		普	○								
		エゾムシクイ	旅		普	○								
		センダイムシクイ	夏	●	普	○			○					VU
	メジロ	メジロ	留	●	普	○								
	センニュウ	マキノセンニュウ	旅		少	◎								
		シマセンニュウ	旅		少	○								
		ウチヤマセンニュウ	迷	●	稀	○	○						EN	CR
		エゾセンニュウ	旅		稀	○								
	ヨシキリ	オオヨシキリ	夏	●	普	◎	○		○					NT
		コヨシキリ	旅		少	○								
	セッカ	セッカ	留	●	普	◎								
	レンジャク	キレンジャク	冬		普	○								
		ヒレンジャク	冬		普	○								
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	迷		稀	○								NT
	キバシリ	キバシリ	迷		稀	○								
	ミソサザイ	ミソサザイ	留		普	○								
	ムクドリ	ギンムクドリ	迷		稀	○								
		ムクドリ	留		普	○								
		コムクドリ	旅		普	○								
		ホシムクドリ	迷	●	少	○								
	カワガラス	カワガラス	留	●	普	○								
	ヒタキ	マミジロ	旅		普	○								
		トラツグミ	冬		普	○								
		クロツグミ	夏	●	普	○								NT
		マミチャジナイ	旅		普	○								
		シロハラ	冬		普	○								
		アカハラ	冬		普	○								
		ツグミ												
		亜種ツグミ	冬		普	○								
		亜種ハチジョウツグミ	冬		稀	○								
		コマドリ	旅		少	◎			○					CR
オガワコマドリ		迷		稀	○									
ノゴマ		旅		少	○									
コルリ		旅		普	○								EN	
シマゴマ	旅		稀	◎										
ルリビタキ	冬		普	○										

表 3.1-39 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (8/9)

目名	科目	種名	渡り*1	繁殖*2	頻度*3	確認記録				指定状況				
						①	②	③	④	A	B	C	D	
						野鳥一覧	北九州の生物多様性	北九州の緑の回廊	福岡県RDB	天然記念物	種の保存法	環境省RL	福岡県RDB	
スズメ	ヒタキ	ジョウビタキ	冬	普	○	○								
		ノビタキ	旅	●	普	○		◎						
		ハシグロヒタキ	迷	稀	○									
		イソヒヨドリ	留	●	普	○								
		エゾビタキ	旅	普	○									
		サメビタキ	旅	普	○									
		コサメビタキ	夏	●	普	○							DD	
		マミジロキビタキ	迷	稀	○									
		キビタキ	夏	●	普	○								
		ムギマキ	旅	稀	○									
		オジロビタキ	旅	少	○									
		オオルリ	夏	●	普	○							NT	
		イワヒバリ	イワヒバリ	迷	稀	○								
	カヤクグリ		迷	稀	○								NT	
	スズメ	ニュウナイスズメ	冬	稀	○								NT	
		スズメ	留	●	普	○								
	セキレイ	イワミセキレイ	旅	少	○									
		ツメナガセキレイ												
		亜種マミジロツメナガセキレイ	迷	稀	○									
		亜種ツメナガセキレイ	旅	少	○									
		キセキレイ	留	●	普	○								
		ハクセキレイ												
		亜種タイワンハクセキレイ	迷	稀	◎									
		亜種ハクセキレイ	留	●	普	◎		◎						
		亜種ホオジロハクセキレイ	留	●	普	○								
		セグロセキレイ	留	●	普	○								
		マミジロタヒバリ	旅	少	○									
		ピンズイ	冬	普	○									
		セジロタヒバリ	旅	少	○									
		ムネアカタヒバリ	冬	少	○									
		タヒバリ	冬	普	○									
		アトリ	アトリ	冬	普	○								
			カワラヒワ											
	亜種オオカワラヒワ		冬	普	○									
	亜種カワラヒワ		留	●	普	○								
	マヒワ		冬	普	○									
	ベニヒワ		冬	稀	◎									
	ハギマシコ		冬	少	○								NT	
	オオマシコ		迷	稀	○									
	イスカ		冬	稀	○									
	ベニマシコ		冬	普	○									
ウソ														
亜種アカウソ	冬		少	○										
亜種ウソ	冬		普	○										
シメ	冬		普	○										

表 3.1-40 北九州市または若松区の鳥類及び重要な種 (9/9)

目名	科目	種名	渡り*1	繁殖*2	頻度*3	確認記録				指定状況				
						①	②	③	④	A	B	C	D	
						野鳥一覽	北九州の生物多様性	北九州の緑の回廊	響灘	福岡県 RDB	天然記念物	種の保存法	環境省 R L	福岡県 RDB
スズメ	アトリ	コイカル	冬	稀	○									
		イカル	留	●	普	○								
	ツメナガホオジロ	ツメナガホオジロ	迷	稀	○									
		ユキホオジロ	迷	稀	◎									
	ホオジロ	シラガホオジロ	迷	稀	○									
		ホオジロ	留	●	普	◎								
		シロハラホオジロ	旅	稀	○									
		ホオアカ	留	●	普	○			◎					
		コホオアカ	旅	少	○									
		キマユホオジロ	迷	稀	○									
		カシラダカ	冬	普	○									
		ミヤマホオジロ	冬	普	○									
		シマアオジ	旅	稀	○								CR	
		シマノジコ	旅	稀	○									
		ノジコ	旅	少	○									NT
		アオジ	冬	普	○									
		クロジ	冬	普	○									
シベリアジュリン	冬	少	○											
コジュリン	旅	少	◎									VU		
オオジュリン	冬	普	○					◎						
21目	66科	337種				336種	32種	24種	35種	8種	12種	68種	83種	

注 1) 表中の○及び◎は北九州市で確認記録があるもの、◎はこのうち若松区で確認記録があるもの  
 注 2) \*1, 2, 3 は、「わたしたちの自然史」(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会, 2007 年) の「北九州市の野鳥一覽」(2007 年改訂版) より引用

【確認記録】

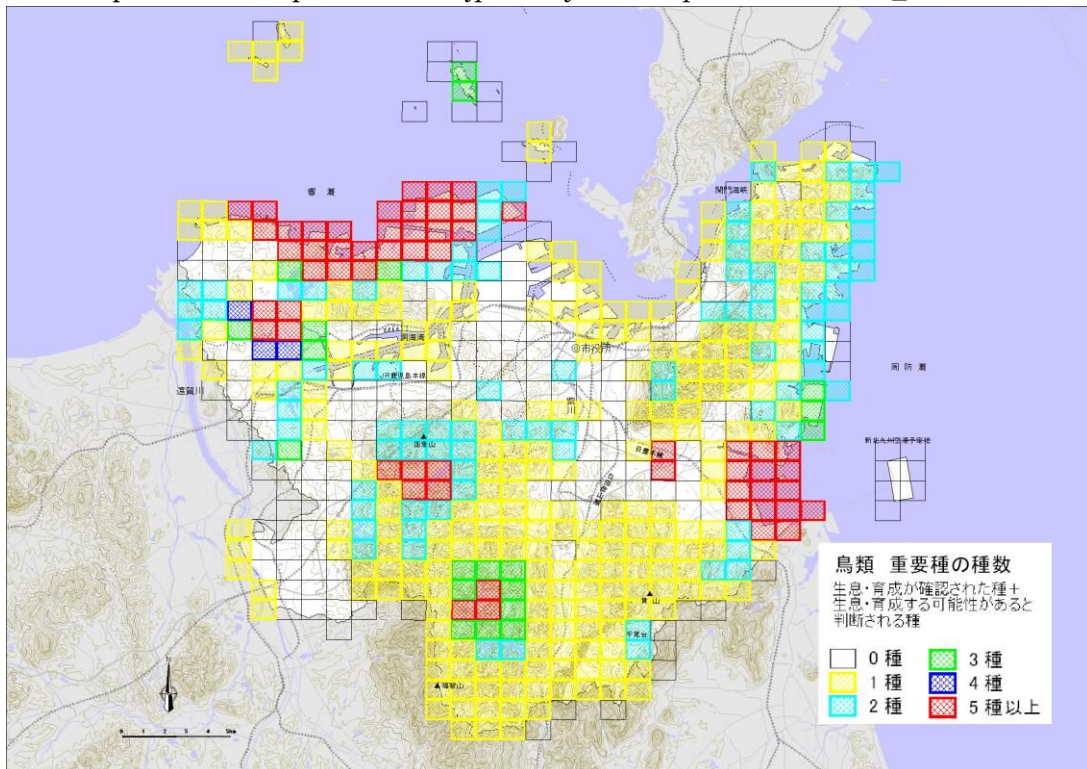
- ①: 「わたしたちの自然史」(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会, 2007 年) の「北九州市の野鳥一覽」(2007 年改訂版) において、北九州市または若松区での記録があるもの
- ②: 「北九州市生物多様性戦略」(北九州市, 平成 22 年) において、北九州市または若松区での記録があるもの
- ③: 「響灘鳥がさえずる緑の回廊創生事業(パンフレット)」(北九州市環境局) において、記載されているもの
- ④: 「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-」(福岡県, 平成 23 年) において、北九州市の記録があるもの。また、「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-」(福岡県, 平成 26 年) において鳥類に関する改訂は行われていない。

【指定状況】

- A: 「文化財保護法」により指定されているもの  
 国特天: 国指定特別天然記念物 国天: 国指定天然記念物
- B: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)」において指定されている種及び亜種  
 国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種 緊急: 緊急指定種
- C: 「環境省レッドリスト 2020(環境省、令和 2 年)に記載されている種及び亜種  
 EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 GR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類  
 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 地域個体群
- D: 「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-」(福岡県, 平成 23 年)に記載されている種及び亜種  
 EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 GR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類  
 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

また、北九州市自然環境保全基本計画に係る基礎調査（平成 15 年度）によると、図 3.1-23 に示すとおり、北九州市の鳥類の重要な種の分布情報が記載されている。事業実施区域周辺においては、鳥類としては白島において 1 種のエリアがみられるが、事業実施区域は距離が離れており、メッシュ外に位置している。白島においては、カラスバトやオオミズナギドリの繁殖地、春秋の渡りの時期における陸鳥の中継地になっている（福岡県の希少野生生物 HP:

[http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/kankyō/rdb/explanations/birds\\_measures](http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/kankyō/rdb/explanations/birds_measures)）。



出典：「北九州市の希少種について（鳥類）」（北九州市HP，平成 15 年）

注）分布図の区画は、都道府県別メッシュマップ 40 福岡県（環境庁 平成 9 年）の 3 次メッシュ（約 1km 四方）に準拠する。

図 3.1-23 鳥類重要種の分布情報

「センシティブティマップ」（環境省、環境アセスメントデータベース）によると事業実施区域周辺における渡りのルートは図 3.1-24 のとおりである。事業実施区域には渡りのルートは見られない。

また、同マップによる重要種の分布を図 3.1-25 に示す。事業実施区域には重要種の分布は見られないが、事業実施区域周辺にチュウヒの分布が見られる。

環境省の「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引きについて」によると、ハククマ及びツルの渡り飛翔ルートが示されている。ハククマの渡りについては、秋季、春季ともに九州北部を横断するルートが確認されており（図 3.1-26、図 3.1-27 参照）、事業実施区域周辺は、渡りルートの一部に該当する。

また、人工衛星を利用した遠隔追跡により得られたハククマの広域的な渡りルートについての研究によると、青森県からマレー諸島までの渡り経路において、九州北部を通過することが確認されている。特徴として、秋の渡りは九州の陸域を西へ移動す